



中央市文化財

※中央市文化財ガイドより抜粋



木造薬師如来坐像
(国指定重要文化財)



八幡穂見神社本殿
(県指定文化財)



浅利与一層塔附五輪塔六基
(県指定文化財)



木造普化禅師坐像
(市指定文化財)



八幡大神社本殿
(市指定文化財)

No.	文化財名称	指定	種別	員数	時代	所在	所有・管理者	指定年月日
1	木造薬師如来坐像	国	彫刻	1 躯	平安	下三条 88	歓盛院	明治 39 年 9 月 6 日
2	木造聖観音菩薩立像	国	彫刻	1 躯	平安	下河東 880	永源寺	明治 39 年 9 月 6 日
3	旧小井川郵便局	国登	建造物	1 棟	近代	布施 2051	関敦隆	平成 10 年 12 月 11 日
4	八幡徳見神社本殿	県	建造物	1 棟	江戸	布施 2034	八幡徳見神社	昭和 40 年 5 月 13 日
5	甲斐国志草稿本及び編集諸資料	県	書跡	3152 点	江戸	西花輪 89	内藤幹彦	昭和 40 年 8 月 19 日
6	浅利与一層塔附五輪塔六基	県	建造物	1 基	鎌倉	大鳥居 1621	大福寺	昭和 46 年 4 月 8 日
7	木造薬師如来坐像	県	彫刻	1 躯	平安	大鳥居 1621	大福寺	平成 18 年 4 月 27 日
8	大福寺破損仏群	市	歴史資料	37 点	平安	大鳥居 1621	大福寺	平成 19 年 12 月 5 日
9	木造聖観音菩薩立像	市	彫刻	1 躯	平安	大鳥居 1621	大福寺	昭和 45 年 3 月 1 日
10	木造多聞天立像	市	彫刻	1 躯	平安	大鳥居 1621	大福寺	昭和 50 年 3 月 1 日
11	木造不動明王立像	市	彫刻	1 躯	鎌倉	大鳥居 1621	大福寺	昭和 50 年 3 月 1 日
12	木造不動明王立像	市	彫刻	1 躯	平安	大鳥居 1621	大福寺	昭和 50 年 3 月 1 日
13	石造六地藏菩薩立像	市	彫刻	6 躯	江戸	関原 1314	慈蓮院	平成 4 年 2 月 10 日
14	木造延命地藏菩薩立像	市	彫刻	1 躯	平安	木原 1076	延命寺	平成 4 年 2 月 10 日
15	木造釈迦如来坐像	市	彫刻	1 躯	室町	下三条 88	歓盛院	平成 8 年 9 月 24 日
16	木造聖観音菩薩坐像	市	彫刻	1 躯	室町	中橋 1332	龍徳寺	平成 8 年 9 月 24 日
17	木造毘沙門天・持国天立像	市	彫刻	2 躯	鎌倉	乙黒 661	蓮華寺	平成 5 年 2 月 22 日
18	木造普化禅師坐像	市	彫刻	1 躯	江戸	下河東 880	永源寺	昭和 50 年 3 月 2 日
19	古文書	市	文書	1 通	江戸	下河東 880	永源寺	平成 5 年 2 月 22 日
	葵金具付御簾		工芸品	2 竿				
20	明暗寺尺八	市	工芸品	2 管	江戸	乙黒 676	田中伐平	昭和 50 年 3 月 2 日
21	明暗寺屋根瓦	市	工芸品	2 枚	江戸	乙黒 668	田中忍	昭和 50 年 3 月 2 日
				1 枚		下河東 880	永源寺	
22	八幡大神社本殿附棟札	市	建造物	1 棟	江戸	西花輪 3976	八幡大神社	昭和 63 年 2 月 9 日
23	長徳院本堂	市	建造物	1 棟	江戸	西花輪 1446	長徳院	平成 11 年 10 月 1 日
24	諏訪神社本殿	市	建造物	1 棟	江戸	東花輪 700	諏訪神社	昭和 63 年 2 月 9 日
25	三星院の梵鐘	市	工芸品	1 口	江戸	木原 1800	三星院	平成 15 年 6 月 6 日
26	田安明神	市	史跡		江戸	大鳥居 1967	大鳥居自治会	昭和 45 年 3 月 1 日
27	王塚古墳	市	史跡		古墳	大鳥居 4256	大鳥居自治会	昭和 45 年 3 月 1 日
28	平田宮第 2 遺跡出土木製品	市	考古資料	136 点	平安	臼井阿原 301-1	中央市	平成 19 年 12 月 5 日
29	石造十王像附奪衣婆像 懸衣翁像	市	有形民族	10 躯附 各 1 躯	江戸	大鳥居 194	龍光院	平成 7 年 9 月 18 日
30	粘土節	市	無形民俗		近代			昭和 56 年 3 月
31	山宮のケヤキ	市	天然 記念物	1 本	樹齢 700 年	大鳥居 2764-1	浅間愛鷹 神社	昭和 45 年 5 月 30 日
32	延命寺のイチヨウ	市	天然 記念物	1 本	樹齢 300 年	木原 1076	延命寺	平成 4 年 2 月 10 日
33	石原家のケヤキ	市	天然 記念物	3 本	樹齢 500 年	関原 1333	石原喜文	平成 4 年 2 月 10 日
34	七覚川河川敷のケヤキ	市	天然 記念物	1 本		高部公民館前	高部自治会	平成 4 年 2 月 10 日
35	木造薬師如来坐像	市	彫刻	1 躯	平安	乙黒 624	蓮華寺	平成 23 年 2 月 1 日
36	上窪遺跡（5 次）墓跡出土品一括	市	考古資料	54 点	平安	臼井阿原 301-1	中央市	平成 23 年 12 月 6 日
37	有泉家の算木	市	歴史資料	1 式	江戸	大鳥居 134	有泉松男	平成 26 年 4 月 8 日

※統一をとるため指定名称を若干変更した。

平成 27 年 4 月（現在）

国指定重要文化財

1 木造薬師如来坐像

歎盛院 彫刻

歎盛院薬師如来坐像は、現在、同寺の本堂内特設保存庫に収蔵安置されています。枳材の一木造、彩色像で、像高 84.7cm とそれほどの巨像ではありませんが、堂々とした姿の立派な坐像です。

2 木造聖観音菩薩立像

永源寺 彫刻

永源寺聖観音菩薩立像は、側面で前後に縦はぎされた頭体部に両ひじ、両手首、両足先、天衣等をはぎ付けた檜材寄木造、漆箔の立像です。

国登録文化財

3 旧小井川郵便局

布施 建造物

昭和 5 年（1930）頃に建てられたと伝わっています。木造 2 階建洋風建築。1 階部分の煉瓦調のスクラッチタイルを貼った外壁と、2 階の白漆喰壁とを対比させた意匠は今も斬新さを保っています。「歴史的景観に寄与している建築物」として国の有形文化財に登録されました。

県指定文化財

4 八幡穂見神社本殿

布施 建造物

社宝の鼻高たけだしょうようけんのおつなの面は武田道遥軒信綱（武田信玄の弟）の作とされています。何度か改修がされているものの、室町あるいは桃山の様式を伝える貴重な遺構です。

5 甲斐国志草稿本及び編集諸資料

西花輪 書跡

「甲斐国志」は松平伊代守定能さだまさが文化 11 年（1814）に完成させ、徳川幕府に献進した 124 卷にわたる甲斐国全般の地誌です。江戸時代に成立した多くの地誌の中で白眉と評されるほどのすぐれた内容をもった典籍と知られ、高い評価を受けています。

6 浅利与一層塔つきたり附五輪塔六基

大福寺 建造物

源平合戦での弓の名手であり、平安時代から鎌倉時代にかけて当時の豊富地区一帯を治めていた浅利与一義成の墓所です。中心にある石塔が与一の墓で、周りの五輪塔はその一族のものとなっています。

7 木造薬師如来坐像

大福寺 彫刻

本像は、大福寺境内の一番奥まった薬師堂内に安置されています。木造彩色、寄木造で、像高 280cm におよぶ県内屈指の巨像です。

市指定文化財

8 大福寺破損仏群

大福寺

歴史資料

本群像は、薬師堂外陣の左右に安置されています。総数は37ですが、朽損により、ほとんど形がわからなくなったものも含まれ、個別の像として確認できるのは19軀です。

9 木造聖観音菩薩立像

大福寺

彫刻

本像は、観音堂に安置され、内陣扉の前に立っているため、通称「前立て観音」と呼ばれています。像高169cm、ひのき材の寄木造で、彫眼の彩色像です。衣文の彫法などから、制作時期は平安時代後期の12世紀頃と推定されています。

10 木造多聞天立像

大福寺

彫刻

本像は、木造一木造、像高100cm、甲に身を固め、武装した姿で表現されています。制作時期は平安時代後期と推定されています。

11 12 木造不動明王立像

大福寺

彫刻

大福寺には、不動明王像が2軀あり、いずれも観音堂に安置されています。①は木造一木造で、像高97.5cm。力感にあふれた力強い肉付けや、写実的な裳裾の線などから、制作時期は鎌倉時代と推定されています。②は、木造一木造で、像高100cm。①に比し、下半身の衣の形式なども優しく、薄手の布の質感を表しており、制作時期は平安時代後期と推定されています。

13 石造六地藏菩薩立像

慈運院

彫刻

慈運院境内にあり、入口の左脇に本堂と向き合う形で6体が並び立っています。いずれも石造の丸掘りで、各1体ずつ石に刻まれたものです。像高は86～88cm。両端の像の背には「宝暦九年十一月」（1759）と銘が刻まれています。

14 木造延命地藏菩薩立像

延命寺

彫刻

木造彩色、寄木造で、像の高さ78cm。立像で、蓮座の上に立っています。右手に錫杖を持ち、左手は欠損しているが恐らく宝珠を持っていたと思われます。制作時期は平安時代後期と推定されています。普段は後世に造られた厨子の中に納められています。

15 木造釈迦如来坐像

歓盛院

彫刻

像高31cm、檜材の寄木造、玉眼入り胡粉地彩色像です。納衣の各所に細やかな唐草文や盛り上文様が認められ、胸前の衣文の彫りや曲線の手法等からは、この坐像が中世鎌倉時代以後君臨した院派の影響を強く受けた像であることが分かります。

市指定文化財

16 木造聖観音菩薩坐像

龍徳寺 彫刻

像高 31.8cm、檜材の寄木造、玉眼入り、胡粉地彩色像です。いく分、眦のつり上がった切れ長の眼差し、固く結ばれた唇、角張って平板な面貌、いかつさの感じられる肩張りや膝の肉付けなどから受ける印象は、観音菩薩の優しさというよりは厳しさを感じさせます。制作時期は室町時代初期と推定されています。

17 木造毘沙門天・持国天立像

蓮華寺 彫刻

毘沙門堂は長林寺の北、山伏川（今川）に架かる富士見橋の東に建ち、蓮華寺が管理しています。この堂内に、毘沙門天・持国天立像が祀られています。両像とも一木造から寄木造に移行する途上の割り矧ぎの手法によって造像されており、鎌倉時代の作と推定されています。毘沙門天 96cm、持国天が 104cm と像高は比較的高い。重厚感がにじみ、造頭当初の力強い面影を今も留めています。

18 木造普化禪師坐像

永源寺 彫刻

普化禪師は、普化宗の開祖です。像高 43cm、檜材の寄木造、挿首、玉眼入り胡粉地彩色像です。制作時期は江戸時代末期とされ、明治 4 年の明暗寺廃絶後、古くから係わりのあった永源寺に移されました。

19 古文書一通・葵金具付御簾二竿

永源寺 文書・工芸品

古文書は、安永甲午年（1774）2月吉日付で、明暗寺八世住職貴光大和尚から巨摩郡地頭田中盛左衛門に宛てた文書です。御簾は二竿とも長さ 168.5cm、幅 44.3cm。一对の釣り金具に葵紋が刻まれ、本体上部に「日輪」「月花」、下部に和歌と思われる墨書が認められますが、現時点では解読できません。

20 明暗寺尺八二管

個人蔵 工芸品

尺八は、普化宗にとって最も重要な宗具の一つで、これが吹けなければ虚無僧としての免許状はもちろん、諸国を托鉢することもできませんでした。

21 明暗寺屋根瓦三枚

永源寺
個人蔵 工芸品

大きさから推測して、三枚とも明暗寺の主要建造物の屋根瓦だったと考えられています。

22 八幡大神社本殿附棟札

西花輪 建造物

本殿は、建坪約 7.34㎡の三間社母入屋造で、現在は銅版葺きです。一部後世で補修が加えられていますが、手法の多くは江戸時代初期の様相を残しています。現存する棟札によると明暦 3 年 4 月（1657）建立です。

市指定文化財

23 長徳院本堂

西花輪

建造物

華輪山長徳院は、慶長元年4月（1596）創建と伝えられています。現在は銅版葺きに改修されていますが、柱など骨組みの部分は当初の形式をよく残しており、本市における江戸期の建造物として数少ない貴重な遺構です。

24 諏訪神社本殿

東花輪

建造物

当社は往古より豊富地区浅利の諏訪神社より勧請されたものといわれています。棟札によると本殿の建立は、延宝4年（1676）で当初は檜皮葺でしたが、現在は銅版葺になっています。文政10年（1827）に再建されました。

25 三星院の梵鐘

三星院

工芸品

現在の鐘楼は、大正6年（1917）の再建といわれています。鑄造による制作で、総高122.5cm、鐘身高90.3cm、口径69.6cmあります。

26 田安明神

大鳥居

史跡

江戸時代中期以降の大鳥居地区は、上大鳥居村といい、江戸時代の御三卿の1つである田安家の所領地でした。三代齊匡が文政2年（1819）、中納言に任じられたのを祝い、翌年にこの田安明神を奉祀したといわれています。

27 王塚古墳

大鳥居

史跡

海拔342メートルの宇山平丘陵の頂点にある前方後円墳です。形式は前方後円墳ですが、特に前方部が短いために帆立貝式古墳と呼ばれています。時期は古墳時代中期の5世紀後半で、現状の全長は61.2mで、後円部径約40m、高さ7mあります。山梨県で唯一の合掌式石室の形態を有します。

28 平田宮第2遺跡出土木製品（136点）

考古資料

低湿地の集落遺跡である平田宮第2遺跡（遺跡の所在地は下河東）は、その立地から木製品の残存状態が他地域の遺跡より極めて良好です。

29 石造十王像附奪衣婆像・懸衣翁像

龍光院

有形民俗

山門を入ると右手に他の石造物とともに、いずれも石造の丸彫りで、10躯そろって並んでいます。年代は、銘がないため不明。十王像の左側に奪衣婆像と懸衣翁像が位置しています。銘を持たないため制作時期は特定できませんが、江戸時代中期から後期にかけてのものと推定されます。石造十王像は数少なく、十王がすべて揃っている点で貴重です。

市指定文化財

30 粘土節

無形民俗

粘土節は、本県釜無川流域の堤防工事に従事した男女の間に歌い継がれた作業歌と伝えられています。粘土を盛り、杵と平打ちを使い日夜築堤作業に精魂を傾け、7年の歳月をかけて現在の堤防がつくられました。このとき、本市釜無川土手の工事に集まった男女の間で歌われたのが「粘土節」です。

31 山宮のケヤキ

大鳥居 天然記念物

山宮組の浅間愛鷹神社にある1本の大きなケヤキ。高さ約17m、現在の地上から1.5mの幹まわりは8.8m、根元のまわりが12.7mあります。この木の幹の下は老木のために腐って「うろ」という空洞の状態になっています。樹齢は、恐らく700年はたっているものと思われます。

32 延命寺のイチヨウ

木原 天然記念物

延命寺境内前庭にあり、高さ約15m、地上から1.5mの幹まわりは、3.42mあります。樹齢は、約300年であると考えられます。

33 石原家のケヤキ

関原 天然記念物

関原の石原家の屋敷地内にある大きくて立派なケヤキ。戦前には数本ほど残っていたが、第2次世界大戦中に供出してしまい、現在は南北に3本並列して現存しています。いずれも高さ約23m、現在の地上から1.5mの幹まわりは、5m前後あり、樹齢は、約500年と思われます。

34 七覚川河川敷のケヤキ

高部 天然記念物

滝戸川と合流する手前の七覚川河川敷土手にある1本のケヤキの木。根元は現在、土手の中に埋もれてその様子がわかりません。高さ約33m、現在の地上から1.5mの幹まわりは、5.37mあります。

35 木造薬師如来坐像

蓮華寺 彫刻

草稿38.5cm、ケヤキ材の一木造りで政策は平安時代前期まで遡ります。

36 上窪遺跡（5次）墓跡出土品一括

考古資料

古代の墓跡から出土したクシ・下駄などの副葬品などになります。

37 有泉家の算木

大鳥居 歴史資料

江戸時代に製作された和算の計算器具です。